



## 1、春節（旧暦正月＝朔）

今では旧暦・農暦の正月というより、「中国のお正月」という方が判りがよいが、**春節**（しゅんせつ・チュンジェ）は、今年は1月23日であった。一昨年は2/14 昨年は2/3 だったから今年は随分と早まったと言える。

中国では太陽暦の正月よりも旧暦の方を重要視して、会社も休暇となり、働く都会から本拠地の農村へ帰る人達で交通機関がマヒするという。民族大移動ですナ。

日本にも農業暦の習慣が残っていて、それぞれに伝統に因んだ行事があるそうだが、中国人が多い「横浜中華街」「神戸南京町」「長崎唐人街」などは竜踊りや曲芸・雑業などが繰り出してお祝いムードで賑わうといわれる。

これらに比べるとぐっと小規模ながら、清水でも『**春節の会**』が興津で行われ100人以上の人がギョウザ作りに挑戦し、お国自慢の歌の披露をしたりした。

長年の恒例行事であり、協力して食べ物を作り賞味しあうこの集いは、両国青少年の信頼を得ている。

清水の中国人の出身地といっても日本の何倍もある中国は様々。余興に歌われる歌も初めて聞くものが多い。南方中国の歌に北方の歌、シルクロードの歌が紹介されたり、日本の歌も出て和気あいあい。国の政治は難しくても、国民・人民同志が仲良くできれば問題は解決できていくはずで、特に若者の親睦が重要である。

次の集いは「花見」「若葉」「七夕」と名残を惜しみ、再会を約して散会した。

## 2、二宮金次郎像 撤去相次ぐ

清水庵原は報徳精神で村造りをした歴史があり、村の集会所を「報徳会館」と称することもあったし、分校を含む小学校には二宮金次郎像があって私の子供時代には、清水の学校でも登下校の際に像に敬礼をしたが、違和感はなく、長じて尊徳伝記を読んでもますます畏敬したものだった。



ところが奈良新聞によると各地で老朽化による金次郎像撤去が進み、再建どころか「児童の教育方針にそぐわない」などの意見があ

るといふ。教師さえもが「子供が働く姿は勧められない」「歩いて本を読むのは危険」などと述べているという。

私には解せないことで、逆に、報徳精神を忘れているから奇妙で不可解な事件が続発しているのではないかと思わせる。ここにも維新風が必要か？

## 3、静岡の空は青い

依頼を受けて静岡駅前の「A O I 静岡音楽館」で仕事をした。前泊として用意してくださったのが「東海の名園」。私は誰かの結婚式で来たことがあるが、宿泊は初。怠け者の寒がり屋は窓からのお庭拝見だが、好いところに泊まらせていただいた。

ちょっと休んで夜の静岡へ。奈良の繁華街は静かに感じられるが、ここは賑やかで、どこから来たか知らない人で店は満杯。三軒も断られてしまった。やっと青葉通りで格好の店を見つけて入り、静岡の味を満喫。食後は七間町から両替町を通り、駅前の戸田書店に入る。清水銀座の本店が閉じられて寂しく思っていたが、ここは盛況である。奈良で購入出来なかった本が二冊もあったので迷わず購入した。

夜の静岡で解せないことが一つ。繁華街に立っている男は何？ 防寒具も着ないでジロジロと通行人を見て、少し離れた所の男と言葉を交わすがそれ以上に何もない。さらに妙なのは、そうした男たちの間を縫うように奇妙なファッションの若い女たちが、無遠慮な大声を出しながらヒラヒラと泳いでいること。珍種金魚の岡釣りか？

いつものように6時に目覚める。名園の木々に池の面。向かいにA O I 静岡音楽館のビルが見え 次第に明けて青い空。久しぶりの静岡の空は感嘆の声を挙げたくなるほどの美しさだった。これに比べて帰りの関が原は雪一面。奈良の空も鉛色。

## 4、 笛吹神社

新聞に 笛吹神社 とあり、全国の笛吹きが参詣するというので早速に出掛けてみた。場所は奈良県中部の葛城市笛吹である。人っ子一人いないが明るい神社。お賽銭を上げて説明書を見ると、正式名称は「葛木坐火雷神社(かつらぎにいます ほのかづり)」で、別名が「 笛吹神社 」。御祭神は「火雷大神」「天香山命」とある。

天香山命 (あめの かぐやまの みこと)とは、この社の祭祀をする家の遠い先祖で、崇神天皇10年(BC88)に賊を退治した功績として「天磐笛」を拝領し、「笛吹連(むらじ)」の姓を頂いてこの社を創建したとしている。紀元前からの人(持田さんといわれる)が住んでいるとは驚きである。

火雷大神が火の神なので火を扱う仕事の人への尊敬を集め、天香山命の伝説から神楽笛、篠笛、尺八など邦楽担当者。現代では洋楽器の演奏家などの参詣がある。特に音楽的な行事はないが、7月17日の夏越祭に、太鼓の奉納演奏があるとのこと。リコーダーが吹けるかな？

参詣を終えて通りから振り返ると、葛城山のロープウェイが間近に見えた。ここ数日に雪が降ったらしく、谷が白く光っている。



### 奈良新聞：読者文芸・時事川柳

七十億 輪廻転生忙しい	冬登山 大和三山 下に見え
冬ざれの風尖りたる石舞台	するすると釣瓶落しの生駒山
孫と搦く合格祈願 除夜の鐘	赤富士の額に掛け替え年新た
雪雲が金剛山を覆いけり	仰ぎ見る金剛山に初冠雪
ならまちの軒下低く松飾り	元旦の人出に仁王 目を見張る
朗々と卒寿の母が歌留多読む	常連の笑顔が揃う初湯かな
鴉にも御慶を申し畑に出る	初雪の青垣山を眺めけり
押し押され十日戎の人となる	えびす笹 改札口を高々と
凍雲の居座ったまま初薬師	佐保・佐起の陵どころ梅探る
初筆に写経したため無事祈る	宝蔵院 稽古初めに狸汁
使わねば干からびており濡れティッシュ	世界一 難無く達成ティッシュ量
「マグロやで」喜び見たらシイチキン	「いじめたら」腕まくりする妻真紀子

## 5、梶原景時の墓が兵庫県の沼島に？

これも奈良新聞の記事だが  
「梶原景時の墓が兵庫県の沼島に」  
とあって驚いた。H24. 1. 26

梶原景時といえば「死の合戦は興  
津・清水。鳥坂の梶原山で自刃し、  
遺体は高橋に晒されて墓は高源寺」  
というのが持論だからである。

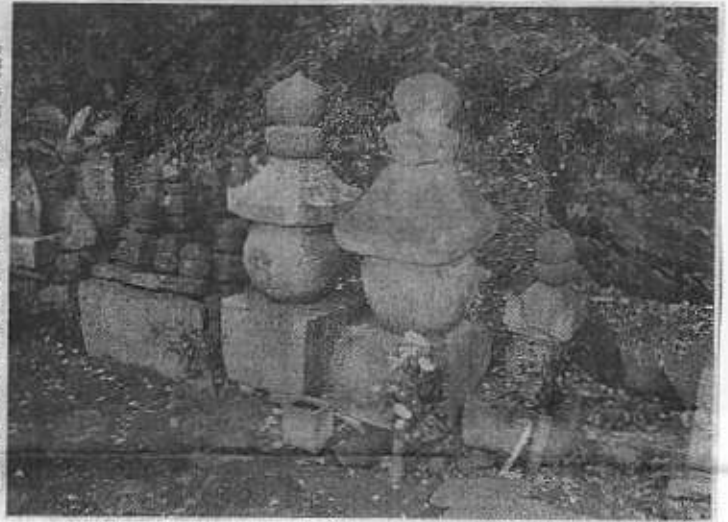
新聞によると「淡路島の南、紀州水  
道に浮かぶ沼島に『神宮寺』という  
古寺があり、景時の遺体は合戦に生き  
残った梶原景義という者が沼島水軍を  
使って瀬戸内に運んで葬った。その際、  
景時が奥州中尊寺から持ち帰った

『曼陀羅』や『大乘論』が寄進され」景時墓とされる五輪塔があるという。

梶原景時に関しては妙立寺の裏山が『梶原山』ということもあって、私は各種の資  
料を収集してあった。その中には岐阜の梶原県知事や友人の音楽家・梶原君の著作な  
どもあったが、全て妙立寺蔵書として残してきたので、この沼島神宮寺を奈良では確  
認ができない。誰か知っていたら教えて下さい。

なお、沼島は淡路島土生港から船で10分・880円 郷土料理として「ハモすき」があり、  
タイやヒラメ漁が盛んとのこと。問合せ 0749-52-0426 南あわじ市企画課

花が手向けられている梶原景時の墓とされる五輪塔



## 6、若草山の山焼き 1月28日

奈良の早春行事・若草山の山焼きは、私が静岡へ出掛ける  
日の夜の行事であった。

たとえ魅力的であっても、夜の行事は敬遠しがちなので、  
見物に出掛けることはなかったと思うが、往きのJR奈良線  
の車窓から、テントを立てて準備中の若草山がよく見えた。  
山焼きの時間にこの列車に乗った人は、居ながらにして刻々  
と移り変わる行事を見ることができたのであろうと思う。

復興へ祈りの炎 若草山焼



## 7、浙江省青少年民族音楽団の来清予定

(学校)清水小10/16 飯田小10/16 橘中10/19 高部小10/23 七中10/23 由比小10/24  
(一般公演) 新清水市民文化会館(マリナート) 10月21日夜